

(語学研究部)

本校では、2011年の東日本大震災の被害状況を伝え、今後の防災、減災を考えてもらう「多賀城津波伝承まち歩き」を行っていますが、これまで語学研究部では海外の方々にも行ってきました。新型コロナ感染防止のため、2年間この活動は行えませんでした。本校ALTのレアンドロ先生は母国での地震の経験がないため、語学研究部8名が4月22日、「まち歩き」を行いました。イオン多賀城の駐車場からの景色を見ながら、建物があってわかりにくいけれども、海が実はとても近くにあることや、当時の動画を見せ、被害状況を伝えました。また、本校の生徒が設置した波高標識で、どこまで浸水していたかを確認しながら、末の松山、砂押川、多賀城駅前のモニュメントなどを案内しました。

また、今回は多賀城市の歴史も知ってもらうため、末の松山の近くにある沖ノ井(沖ノ石/興井)も案内しました。



【参加した生徒の感想】

コロナ禍の中で、規模を縮小してALTのレアンドロ先生だけとなりましたが、案内することによって、多くの学びを得ることができました。歩いて行く中で、当時の状況を思い返し、それを英語で伝えることはとても難しく、それでも当時は大変だったことが伝わるように話しました。他の人の発表を聞く中で、自分が知らなかったことや、津波の痕跡が残ってい

る箇所等、学ぶことが多くありました。反省点は、私が説明した場所は交通量が多いところでしたが、メモを見ながら話したので、声が届いていたのかどうかわからなかったところでした。もう一つは英語でのおしゃべりが、あまりできなかつたことです。レアンドロ先生が一人で歩いているときもあつたので、話の小ネタ等を用意しておけば良かったと思つました。

(3年 普通科 佐藤優稀乃)

「まち歩き」は、高校入学後、災害科学科に所属してつた私はとても興味があつましたが、世界的に流行した新型コロナウイルスにより、ほとんどが中止となりやるせない気持ちでつた。語学研究部で「まち歩き」を行うと聞いたときは嬉しい気持ちもあつた反面、英語を使うというハードルの高さに不安な気持ちもあつましたが、実際やってみるとほぼ感じませんでした。ALT の先生との会話では稚拙な部分もあつましたが、最低限の意味疎通ができてつたので、今回の「まち歩き」は自信につながつました。

(3年 災害科学科 玉川淳之介)

今回の「まち歩き」は、市街地での実施なので周囲にも気を配る必要があつました。イオン店内、外、道路、信号では安全を第一に、そして、周りに迷惑にならないように端に寄るなど気をつけて行つました。レアンドロ先生にもつと話しかけたり、自分の発表の時にはもつとジェスチャーや、補足的な説明等を加えたりすれば、伝わりやすかつたと思つます。自分自身は、初めての「まち歩き」で、驚きもあつました。内容はわかつてつても、その場で見るのは全く違つました。そして最も驚いたのは、スタート地点のイオン多賀城に入つてすぐの津波到達点を見たことでした。自分の身長よりはるかに高く、こんなにも高い波が瓦礫とともに押し寄せてきたこと考えると、被害の大きさを改めて感じることもできました。

(2年 千葉大輔)

【参加した ALT の Leandro 先生の感想】

The town walk was an excellent experience. In my hometown, there are no earthquakes, which means there are also no tsunamis. By following the path of the tsunami after the 2011 earthquake, I was able to understand a little more about the dangers of tsunamis. I also feel a little more confident about what I should do in case of a tsunami warning. Tagajo is very close to the ocean, so we should take every earthquake and tsunami warning seriously.

「まち歩き」は素晴らしい経験でした。私の故郷は地震がないので、津波もありません。2011年の地震後に起きた津波の痕跡をたどり、津波の危険について理解することがで

きました。また、津波警報の際にはどうすべきか理解できた気がします。多賀城市はとても海に近いので、私たちは全ての地震や津波警報を深刻に受け止めなくてはならないと思いました。